金子弌大 Chihiro KANEKO #19

▲▼2014年には最多勝、最優秀防御率の2冠に輝くとともに、沢村賞を受賞（写真上）。今季まで14シーズンで7度の2ケタ勝利で120勝を挙げている

かったです。

――こちらが感じている以上に、思い悩んだわけですね。

金子 すごく悩みました。

――金子選手と僕は、11月に一緒にトータルワークアウトでトレーニングをしました。シアトルにもご一緒させてもらって、ドライブラインというトレーニング施設にも行きました。このころは19年の所属先について、まだ決定していなかったのですが、このころの心の動きを教えてください。「自由契約を選ぶかもしれない」と、その可能性も教えてくれていて、僕は衝撃を受けていました。

金子 選択肢としてはありましたね。

――自由契約でも、"自由契約残留"できないか、という話も。

金子 そういう相談もさせてもらって、オリックスは「それでもいい」と言ってくれたので。いろいろなことを考えることができたのですが、そのころは残るという確率が一番高かったと思います。

――僕もそんな気がしていました。

金子 妻も「何だかんだ悩んでいるけど、どうせ残るんでしょ？」という感じだったらしいです（笑）。でも、今後の野球人生を考えたときに……自分で言うのも変な話なんですが、今までは本当に個人的なことは考えてこなかったんです。チームが勝つためにはどうしたらいいのか、ということを一番に考えてきたつもりなので。1回、自分がどうしたいか考えようと思ったんです。

――自分主語で。

金子 個人的に、僕がどうしたいか。そう思ったときに、「何がしたいんだろう？」「何を目指しているんだろう？」と、分からなくなってしまって。でも、1個1個じっくり考えていくと、まずメジャーを経験したい、経験したことを、日本に帰ってきて、野球界に伝えたいというところが僕の中では結構大きくて。メジャーに行くということは、チームが変わるわけじゃないですか。オリックスからメジャーに行くというのでも問題はないんですけど、その前に、日本のほかのチームを経験するのもいいんじゃないかと。もしかしたら、引き出しが増えるかもしれないし、それによって考え方も変わるかもしれない。チームが変わる不安はもちろんあったんですが、自分の経験値を増やすというか、今後のことを考えたときに、そっちのほうがいいんじゃないかと結論が出ました。結構時間が掛かりましたね。前回のFAのとき（2014年オフ）よりも悩んだと思います。当時も悩んだんですけど、オリックスで優勝したいという芯はブレなかった。だから残るって決めたんですけど。

――このオフに西村徳文監督の就任が決まり、1度、「中継ぎでも何でもやります」と話していたとか。

金子 今選手の面談があったので、そのときですね。確かに言いました。

――移籍することを決めたときには、何と言いに行ったのですか。

金子 まだ、直接西村さんとは会えていないので、球団にですが、初めての経験だったので、正直、何て言っていいのか分からなかったです。どう伝えるべきか。「今回は、他球団にお世話になります」と。それしか言えることがなかったです。

ロングも短いイニングもさまざまなことに魅力

――オリックス相手に投げることは想像できますか。

金子 いや、まったく想像できません。前回のFAのときも考えたんですけど、想像できませんでした。

――19年の開幕3連戦は日本ハム対オリックス（札幌ドーム）です。

金子 そうなんですよね。ここ最近、紅白戦に投げることもほとんどなかったので、チームメートに投げるってことが、ここ数年なかったんですよ。たまに二軍の調整でシートバッティングとかに投げますけど、一軍の選手にはないですね。だから、どんな気持ちになるんでしょうね。例えば、T―岡田、安達了一……、投げるイメージがわかないです。こんなことではダメなんですが、今考えると笑っちゃうような気がします（笑）。

――何か、楽しみですね（笑）。

金子 楽しみではあるんです。違和感はありますけどね。でも、真っ向勝負はしないです。真剣勝負します。オールスターみたいな、ああいう感じの対決にはしたくないです。

――当然、勝利を求めにいくわけですからね。

金子 そうですね。もし初対戦で真剣勝負をしておかないと、今後に響いちゃうような気がします。

――19年の開幕は試練であり、運命であるのかなと感じます。

金子 そんなこと考えてない状況で、日本ハム移籍を決めたので、そういえば、開幕戦はオリックスだったよな、と後で気付きました。もし投げることがあったら、緊張もするし、いろいろな感情が混ざると思いますね。またどうしたらいいか、気持ちの整理がつきません。あと3カ月で整理をつけないと。先発だと事前に分かっているので、いろいろなことを考えてしまうと思うんですけどね。

――これから先、「中継ぎでもどこでもやる」と話していましたが、照準としては、理想としては、開幕に合わせて、しかも頭（先発）で投げられるのがベストですよね。

金子 勝手に開幕には合うんです。体は。周りの環境もそうだし、オープン戦も積み重ねていって、周りが開幕に照準があってくるので。それで自然と体も合っていきます。じゃあ、先発なのか、中継ぎなのか、となったときに、僕はそんなに調整方法が変わらないので。

――そうなんですね。頭から投げたいという思いはないですか。先発ピッチャーとして、開幕からローテーションに入りたい、という。

金子 今の僕は、正直、「どっちをやりたい？」と聞かれたら、中継ぎをやりたいです。

――11月のトレーニングでかなり状態が上がり、その後のトータルワークアウトでのトレーニングもかなり良い状態だと聞きます。このオフ、トレーニングを開始した当初、肩の状態が戻れば「沢村賞を獲った14年に近いパフォーマンスを出せる自信がある」と言っていました。それでも中継ぎがいいのですか？

金子 一般的にイメージされる1イニングやワンポイントの中継ぎというよりは、ロングもやるし、短いイニングもやる。いろいろなことをやってみたいです。一応、ここ何年間かは先発をやらせてもらってきたんですが、長いイニングを投げるのは慣れなんです。僕からすると、調整方法はあまり関係ない。どちらかといえば、「短いイニングを毎日投げろ」と言われたほうが、体も慣れていないので、体も大変なのかなというイメージがあります。

――ただ、逆にそこにはこれまでになかった刺激がある。

金子 どの場面に投げても打たれちゃいけないのは当たり前なんですけど、中継ぎで投げると、先発ピッチャーから受け継いだそれまでの試合の流れってあるじゃないですか？　それを壊しちゃいけないし、また違うプレッシャーがあるんですね。先発にないかって言われたら、そっちのほうがいいんじゃないかと。

2019新天地に翔る――。

「今の僕は『どっちをやりたい？』と聞かれたら、中継ぎをやりたいです」

▲背番号も愛着のある19に決まり、「北海道のために一生懸命頑張っていきたい」（写真＝兼村竜介）

■金子弌大の年度別一軍投手成績

※赤太字はリーグトップ

年度	所属球団	登板	勝利	敗北	S	H	完投	完封勝	無四球	勝率	投球回	安打	本塁打	四球	死球	三振	失点	自責点	防御率
2005	オリックス	0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
2006	オリックス	21	1	1	0	1	0	0	0	.500	28	20	4	18	2	22	13	11	3.54
2007	オリックス	36	6	2	1	2	2	2	0	.750	84	75	4	20	1	68	31	26	2.79
2008	オリックス	29	10	9	0	0	0	0	0	.526	165	185	19	34	8	126	78	73	3.98
2009	オリックス	32	11	8	4	0	5	2	1	.579	171 ⅓	149	15	34	4	165	54	49	2.57
2010	オリックス	30	**17**	8	0	1	**7**	**6**	2	.680	**204 ⅓**	184	17	44	3	190	85	75	3.30
2011	オリックス	20	10	4	0	0	5	2	3	.714	155 ⅓	126	9	38	2	123	45	42	2.43
2012	オリックス	9	4	3	0	0	2	1	1	.571	63 ⅔	65	2	15	1	56	19	17	2.40
2013	オリックス	29	15	8	0	0	**10**	**3**	1	.652	**223 ⅓**	166	10	58	3	**200**	55	50	2.01
2014	オリックス	26	**16**	5	0	0	4	3	1	.762	191	157	7	42	3	199	48	42	**1.98**
2015	オリックス	16	7	6	0	1	0	0	0	.538	93	85	8	18	0	79	34	33	3.19
2016	オリックス	24	7	9	0	0	2	1	1	.438	162	143	13	59	2	125	71	69	3.83
2017	オリックス	27	12	8	0	0	6	1	2	.600	184 ⅓	160	21	56	2	141	80	71	3.47
2018	オリックス	17	4	7	0	0	0	0	0	.364	100	97	11	35	3	72	47	43	3.87
通算（14年）		316	120	78	5	5	43	21	12	.606	1825 ⅔	1612	140	471	34	1566	660	601	2.96